

前回委員会における主な意見

これまでの検討経緯

令和2年	9月30日	「建設リサイクル推進計画2020(事務次官通知)」公表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 建設リサイクルの推進に向けた基本的考え方、目標、具体的施策 等 	
			
令和6年	3月28日	第16回 建設リサイクル推進施策検討小委員会 (第1回) <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会情勢を踏まえた今後の論点 ・ 令和6年度建設副産物実態調査 	※現地視察会(6月6日開催)
			
令和7年	7月2日	第17回 建設リサイクル推進施策検討小委員会(第2回) <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係団体からのヒアリング ・ 建設リサイクルの「質」の向上に関する論点の整理(案) 等 	
			
	1月29日	第18回 建設リサイクル推進施策検討小委員会(第3回) <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係自治体からのヒアリング ・ 建設リサイクル施策に関する検討 等 	
			
	4月21日 (本日)	第19回 建設リサイクル推進施策検討小委員会(第4回) <ul style="list-style-type: none"> ・ 早期に取り組むべき施策について ・ 提言 中間取りまとめ(素案) 等 	
			
	上半期	第〇回 建設リサイクル推進施策検討小委員会(第〇回) <ul style="list-style-type: none"> ・ 提言 中間取りまとめ(案) 	

前回委員会における主な意見

カーボンニュートラル

- ・ カーボンニュートラルに関しては他省庁や他分野でも検討されているため、連携できるとよい。

循環経済（サーキュラーエコノミー）

①建設発生土の有効利用促進

- ・ 各発注機関との建設発生土の利用調整を、担当者が通常業務と並行して行っているため負担が大きい。（関係自治体）
- ・ 官民マッチングシステムについて、搬入や搬出時期の調整までを行うシステムであれば利用を検討できると考えている。（関係自治体）

②建設廃棄物のリサイクル推進

- ・ 再生骨材コンクリートは、規制緩和の観点も必要である。（例えば、消波根固めブロックは新材しか使えないなどの規制がある）
- ・ 再生骨材コンクリートの活用は、非常に素晴らしい。規制緩和や品質確保などの課題を解決しながら進めていければなおよい。
- ・ 再生骨材の利用拡大については、全国一律ではなく地域の再生砕石の実態等も配慮が必要。
- ・ 再生材の使用は、品質面での不安がネックになっている。実績を積んでいく必要があるので先導モデル事業をやっていただきたい。
- ・ 再生骨材コンクリートの利用拡大には、ある程度強制力も必要ではないか。
- ・ 再生骨材コンクリート普及のため、経済産業省や全国生コンクリート工業組合連合会と連携しながら進めてほしい。
- ・ 再生骨材コンクリートについて、戦略としてH・M・Lのどれを活用するのが当面有効なのか議論できるデータがあればいい。
- ・ 再生砕石や建設汚泥等の組合せでよりサーキュラーエコノミーを促進していくことが可能ではないか。全体を見ながらの検討も必要。

③長寿命化等による廃棄物の発生抑制

- ・ 建設物は非常に寿命が長いため、早く取組を着手することが必要。

激甚化する災害への対応

- ・ 能登半島地震により発生した災害廃棄物の能登瓦をリサイクルした事例がある。そういった事例も拾うとよい。

生産性向上等

- ・ 安定的な人材確保が困難な状況の中で、デジタル技術の活用を検討も有効ではないか。（関係自治体）